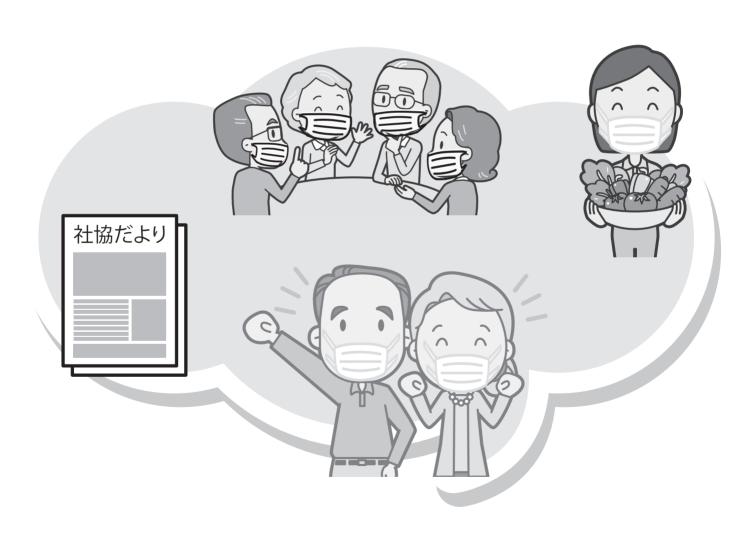
# よこはまの地区社協活動

~地区社協データ&事例集~ (令和2年度版)





# もくじ

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
応援
(1) 市域のデータ・・・・・・・・・・・・・・2
(2)事例
・緑区鴨居地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
・中区関内地区、南区永田みなみ台地区・・・・・・・・・・・4
・港南区日野南地区、青葉区山内地区・・・・・・・・・・・・5
·都筑区東山田地区、戸塚区下倉田地区········6
・栄区豊田地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
(3) 地区社協の困りごと、みんなはどうしてる?・・・・・・7
話し合い
(1) 市域のデータ・・・・・・・・・・・・・8
(2)事例
・瀬谷区南瀬谷地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
・鶴見区寺尾第二地区、旭区旭北地区・・・・・・・・・・・・)(
・磯子区汐見台地区、金沢区富岡第二地区・・・・・・・・・・・)
関係機関との連携
(1) 市域のデータ・・・・・・・・・・・・・・・・・12
(2)事例
・泉区新橋地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
・神奈川区神大寺地区、港北区新羽地区・・・・・・・・・・・)
その他
(1)事例
・西区第六地区、保土ケ谷区保土ケ谷南部地区・・・・・・・・・・15
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

#### はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、人々が距離を取ることを求められた結果、これまでと同じように地域活動を行うことが難しくなりました。地域活動が制限されたことで地域の中での直接会う機会が減少し、地域にある困りごとが見えづらくなり、発見が遅れ深刻化するリスクも高まっています。

こうした社会状況の中、横浜の地区社協はネットワーク組織としての機能を活かしながら、住民の目線で地域の状況を把握し、活動者・団体と一緒に自分たちができることを話し合い、住民の暮らしと身近な地域の小さな活動を支えるために様々な工夫をしてきました。

今回の「よこはまの地区社協活動 ~地区社協データ&事例集~」では、地区社協の強みの一つである「身近な地域の小さな活動の応援」に焦点をあて、地区社協の機能があるからこそできる「応援」「話し合い」「関係機関との連携」の3つをテーマにしています。それぞれの地区で工夫された事例と、市内256地区社協の活動状況をまとめた地区社協状況書のデータから、身近な地域の小さな活動の応援に関係する部分を抽出して掲載しています。

この「よこはまの地区社協活動 ~地区社協データ&事例集~」を通じて、住民同士の支えあいの基盤である地区社協活動の一端を知っていただければ幸いです。

#### 略語表記

※この冊子では、次の用語については( ) 内の表示とします。

- · 地区社会福祉協議会(地区社協)
- · 区社会福祉協議会(区社協)
- · 市社会福祉協議会(市社協)
- · 民生委員 · 児童委員 (民生委員)
- · 民生委員児童委員協議会(民児協)
- ·地区連合町内会(地区連合)
- · 自治会町内会(自治会)
- · 地域福祉保健計画(地福計画)
- ・地域ケアプラザ(CP)
- ・新型コロナウイルス感染症(コロナ)

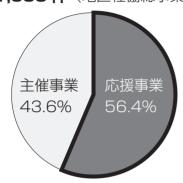
# 応 援

地区社協は、その機能の一つである資金助成や広報を通じて様々な地域活動を 応援することで、小さな活動を支える基盤となってきました。コロナの影響によ り多くの活動が休止する中で、今まで培ってきたノウハウを活かしながら住民同 士がつながり続けるために、地区社協にしかできない応援をしています。

#### 市域のデータ

#### (1) 地区社協が行う他団体の活動の応援数

1.533 件 (地区社協総事業数: 2.717件)



#### (2) 応援している活動へ参加している人数 248,143名

(3) 内容別(複数選択)

資 金*	904件
担い手	876件
広 報	671件
相談調整	213件
その他	26 件

※詳細は P8(2)の表参照

多くの事業で助成金配分や担い手の応援をすることで、安定的な活動を支えています。

●応援事業のうち単位自治会・町内会エリアでの活動応援数

472件

地区社協が応援している事業のうち 1/3 は生活に身近な地域での活動です。

#### (4)活動別内訳

地域全体の見守り(パトロール)

配食活動

居場所(サロン・子ども食堂など継続的なもの)

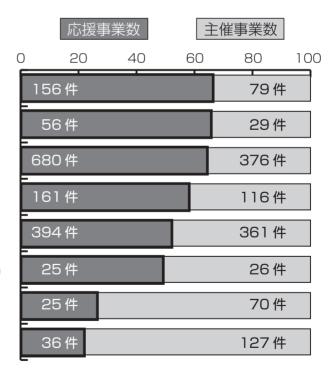
個別世帯の見守り

交流(イベントなど単発な物)

地域全体の見守り(支えあいマップ・要援護者マップなど)

地区ボランティアセンター

人材育成



データから見守り活動や地域の居場所など、生活に身近な場所で行われる活動を地区社協が応援している現状がうかがえます。活動の応援を通じて地域のつながりの中で、住民一人ひとりの困りごとを支えています。

また、ネットワークでつながる団体の課題を解決するために一緒に考え、従来の方法にとらわれず自由な発想で柔軟に取り組めるのは、住民主体の団体である地区社協の強みでもあります。

応 援

#### 緑区 鴨居地区社協

## ステイホーム鴨居福祉まつり 2020

~ 冊子で思いをつなげる・つながる ~

毎年 11 月に小学校を使用して、地区社協及び地区連合が共催で鴨居地区内外で活躍している福祉団体と協力し、鴨居福祉まつりを開催していました。しかし、コロナの影響により、約1000人が来場する福祉まつりを実施することは難しいと考え中止にすることとなりました。

#### 福祉まつりの目的を達成するためには

地区社協幹部会にて、「中止するだけで良いのか?」「福祉まつりの目的を達成するためにはどうすれば良いのか?」などの話し合いを重ね、福祉まつりの目的である「地域の方々に福祉に係る団体の取組状況や役に立つ情報を提供すること」を目指し、"目で見る福祉まつり"として冊子を作成することとなりました。

福祉まつりへ参加していた各種団体に趣旨を説明し、原稿作成を依頼したところ、それぞれのアイデアが詰まった原稿が寄せられました。原稿や写真は地区社協幹部で、編集から校正を行いました。

コロナ禍のため、幹部同士のやり取り、団体への原稿確認依頼もメールやクラウドを活用しながら進めました。"避密"で進めることができ、「会えなくても顔の見える関係」ができました。原稿作成が難しい団体へのフォローなども行うことで、予定していた全ての団体を掲載することができました。明るい配色の表紙にしたり、イラストや写真を多く文字を少なくするなど、手に取って読んでもらえる工夫を凝らした冊子が出来上がりました。

#### 鴨居地区を広く知ってもらうために

作成した冊子は、鴨居地区の取組や動きを知っていただくため鴨居地区の**住民へ全戸配布**した他、冊子作成に携わった団体、緑区内民生委員や地区社協の会議、鴨居 CP とつながりがあるケアマネジャーなどへ配布しました。

#### 地区社協として大切にしたこと

①福祉まつりを継続させること…これまでも大切にしていた「みんなで楽しく仲良く、色々な団体と知り合うことができる」ことを冊子で伝えることができ、実施方法は違っても、福祉まつりが継続できました。

②つながりを保つこと…全団体が掲載できたことや福祉まつりで大切にしていたことを**"つなげる"**ことができました。

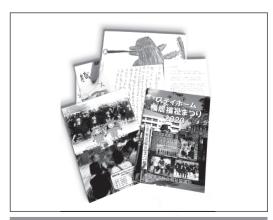


冊子作成に携わった幹部会の皆さん

## 今後に向けて

掲載団体から地区社協へお礼状が届いたり、「掲載団体を手伝いたい」と CP に相談がある等、紙面を通して団体と地区社協、地区社協と住民、住民と団体がそれぞれのつながりを深めることができました。

来年度の実施はまだ未定ですが、当初の目的を確認しながら、つながりをさらに深めることを大切に進めていきたいです。今年度中に発行予定の地区社協広報紙「ゆずり葉」にアンケートの協力依頼を掲載し、冊子の意見や要望等を伺い、福祉まつりへのアイデア等も募集します。また、アンケートでは、生活する上でのニーズや人材発掘もかねて地域活動への参加希望の有無などを伺い、今後の地区社協の活動に活かしていきたいと考えています。



出来上がり冊子と掲載団体からのお礼状

#### 新型コロナ感染拡大の中での地域活動

~参加者同士のつながりが、活動の原動力に~

官公庁や多くの企業事務所がある一方で、高層住宅が点在している地域で、住民や働く人が顔の見える関係づくりのための地域活動を行ってきました。地区内にあるレストランでの異世代交流の会食会、体操活動、そして地元小学校に通う児童の親御さんの声から生まれた「子ども防災ウォーク」など住民の思いから始まった活動が様々あります。活動を通して**住民同士のつながりを強めてきましたが、**コロナの影響により開催も危ぶまれました。

地区社協理事会では「参加者も活動者からも開催してほしいとの声がある」、「いったん中止にすると、改めて実施していくのは大変」といった意見が出ました。 せっかくできた横のつながりを絶やしたくないという思いを再確認し、感染防止対策を徹底して会食会を始め、一部の事

業を実施していくことになりました。 屋内での活動や感染防止対策が難しい 事業は、やむを得ず中止することも ありましたが、コロナ禍で改めて各 事業の開催の意味、特に参加してい る方々の思いを考える機会となりま した。



感染防止対策を行って実施した会食会|

## 中区 関内地区社協

地区社協として大切にしたこと

「やってみたい」という声を大切に活動を生み出し、 また参加者一人ひとりが主 体的に参加できるようにしてきました。

そして参加者個々人が気兼 ねなく話をできる対等な関係が生まれています。この「つながり」がコロナ禍で も、なんとか活動を継続しようとする原動力になっています。

#### 永田みなみ台地区"見守り隊"の再開

~地域でのちょこボラ活動を通じた見守りの再開に向けて~

地区内のちょこボラ活動を、コロナの影響により休止していました。 緊急事態宣言も解除され、活動者から「まだ再開してはいけないの?」 という声もあり、まずは役員で活動再開に向けて、休止中にあった依 頼も含め、内容や対応状況を確認しました。その上で、**再開後に対応 可能な活動や対応時のルール**を決めていきました。

一番気を配ったのは、活動者も依頼者も安心して活動ができること。 2回の話し合いを経て2つのルール(①原則は屋外活動、②室内に入る ものは短時間ですませる)を決め、活動を再開することとしました。ま た、定期訪問の話し相手等の依頼は、介護サービスの利用を確認し、利 用していない方は電話で対応する等工夫もして、見守りを継続しまし た。話し合いの参加者から活動再開に向けた不安も聞き、どうすれば

**不安解消できるか話し合い、**不安が消せないケースは対応しない、ということも決めました。

今回のようにじっくりと話し合いをしたことで、買い物の依頼の頻度や、いつ・どこで・誰が・誰の活動をしたかが分かるように記録を残すことなど、活動開始から数年が経過して、決め切れていなかった活動のルールを再度整理することもできました。



役員会の様子 少人数で、距離を取りながらの話し合い

# 南区 永田みなみ台地区社協

地区社協として大切にしたこと

話し合いの場を持ち、活動 再開できたことは喜ばしい です。先日、数か月ぶりに 隊員全員で集合し、改めて 活動に向けた意欲などを聞 きました。

休止期間中、対応に苦慮した依頼もありましたが、思いや状況を共有し、「手伝うよ」と言い合える場づくりを進めつつ、今後は色々な人に依頼対応してもらえるよう調整していきます。

#### 『ふれあいコール』でつながって、ちょこっと安心感!

~新しい生活様式にあった活動の展開~

電球の交換やゴミ出し、庭の手入れ等、一人ひとりの住民のちょっとした「困った」を解決するため、住民自らが立ち上げた助け合いのボランティアグループ「ちょこっと助け合い」が活発に活動しています。

コロナの影響により、住民からは「外出が制限され誰とも話をしていない」「外出しないから一人で過ごしている」等の声が多く聞かれるようになり、民生委員や自治会関係者、ちょこっと助け合いのメンバーからは「虚弱していく高齢者をなんとかしたい」「つながりを絶やしたくない」等の強い思いが見えるようになりました。

そこで両者の思いを形にするため、ボランティアが電話で話し相手となりいつでも気軽に"つながれる"「ふれあいコール」の検討をはじめました。自分たちの活動も制限される中で協議を重ね、9月にふれあいボランティアの募集を呼びかけたところ 17名が集まりました。11月には傾聴研修も兼ねたキックオフミーティングを実施、1月の

事業開始に向けて地域一丸となって取り組んでいます。ふれあいボランティアは、必要に応じて民生委員やCPへのつなぎ役としての役目も果たします。



チラシの抜粋『ふれあいコール』に ついて載せました

#### 港南区 日野南地区社協

地区社協として大切にしたこと

『ふれあいコール』は、**地域** の一人ひとり、一つひとつ の困りごとに対して何をしなければならないのか、何ができるのかを考える過程で生まれました。

新しい生活様式のもと、活動に工夫が求められる中、地域が長年培ってきた住民力を活かして新たな発想で活動を展開、拡充する際には、積極的に支援していきたいです。

## 居場所探しのキャンペーン【GoTo 山内!】

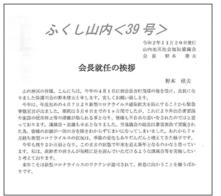
~居場所探しをきっかけに新たなつながりを作る~

参加者やスタッフを探している団体とコロナの影響で外出や買い物の機会が減った住民をつなぐために「ふくし山内(地区社協広報紙)」で各活動団体の紹介をすることになりました。

地区社協が助成金を配分している団体に声をかけて原稿作成を依頼しました。ボランティア団体や老人会の 20 団体、山内地区内の 3CP の協力を得て「活動日時・会場・内容」を記載し、興味を持った活動には直接連絡が出来るよう「連絡先」を記載するなどの工夫を行い、地区社協広報部会で紙面作成をしました。

以前は、広報紙の配布は関係団体の みでしたが、「今回は地区内に住む人 みんなに知ってもらいたい」との意見 から、回覧板を活用しました。

今回掲載した団体の中には、コロナの影響で活動を再開していない団体もありますが、地域で行われている様々な活動を紹介する機会となりました。



ふくし山内<39 号>

## 青葉区 山内地区社協

地区社協として大切にしたこと

居場所を探すための第一歩 として、まずは「**活動を知っ** てもらうこと」に着目し、 情報発信の重要性を再確認 しました。

青葉区の約5分の1の面積を占める広大な山内地区において、誰もが気軽に身近な場所で地域活動に参加できるよう、今後は広報紙やホームページを活用した地域情報の発信にも力を入れていきたいです。

#### みんなで考える「場」は地区社協が作る

~ 「福祉団体等連絡会」と「ちょっと立ち寄れる場連絡会」の合同開催~

第3期地福計画の中で「『ちょっと立ち寄れる場(カフェ)』づくりに努めること」を目標に掲げ、平成30年には地区内全8か所にカフェが開設されました。カフェを通した見守りを進めてきましたが、コロナの影響により、全てが休止となりました。

再開についてはボランティアの間で意見が割れました。高齢者の体力低下が心配だが、どうして良いのか分からない等の声があがり、まずは団体同士の情報交換の「場」を作ることが必要だと感じ、東山田 CP に相談しました。カフェ以外の食事会グループやちょこボラグループ等も同様の悩みがあるのではないかとのことで、地区社協主催で「福祉団体等連絡会」と「ちょっと立ち寄れる場連絡会」を11月に合同開催しました。

各団体が現状と課題について報告し、 意見交換を行いました。話し合いの中で、再開したカフェの工夫などを聞く ことで、自分達も前向きに検討したい といった意見が上がりました。



三丁目カフェ

## 都筑区 東山田地区社協

# 地区社協として大切にしたこと

連絡会は各団体に活動の再開を促すためではなく、コロナ禍での活動の在り方について皆で考えようという目的で開催しました。

各団体の活動の工夫や、コロナの影響により担い手不足となった団体を他団体のボランティアが手伝っている等の話も聞くことができ、みんなで考える「場」を持つことの重要性を再認識しました。

#### コロナ禍においてボランティアの気持ちを つなぎとめるために

~つながりを絶やさないための取組~

コロナの影響により地区社協事業がすべて中止になりました。どのようにしたら今まで活動してくれていたボランティアの方たちの気持ちを絶やさず、つながりを持ち続けることができるのかを考えました。そこで活動が停止していた 6 月に、登録しているボランティア(50

**名程度)の方たちに現在の事業の中止状況や、活動再開に向けた今後の見通しをお手紙で送付**することにしました。また毎年実施していたボランティア交流会も例年通りの形での開催が難しい中で、**複数回に分け、少人数で**行いました。

今後の生活様式に合わせた事業内容や、CP 等の施設の利用方法をお伝えし、活動再開時にどのような方法があるのかを、一緒に考える場を設けました。各事業の大事な担い手として活動しているボランティ

アの方たちと継続した"つながり"を 持ち続けるために、全員で集うという 形だけではなく、手紙を送付したり、 集まり方を工夫するなど、できること は何かを考え実施しました。



サロン研修時の様子(会場設営検討)

#### 戸塚区 下倉田地区社協

# 地区社協として大切にしたこと

できないからやめるのでは なく、**どのようにしたら再 開できるのかを工夫し、行 動する**ようにしました。

目的を再確認しながらボランティアー人ひとりのお気持ちをつなぎとめるために今できることは何かを考え、機会があるたびに、今後の取組について案内を行ってきました。

#### こんな時だからこそ オール豊田!

~意見交換をしたあとの一体感 ~

「たまり場とよだ」は月1回どなたでも参加0K!の地域の食堂です。 放課後の子どもたち、保育園帰りのママたち、おしゃべりに来る高齢者 など200名程度の方のホッとする居場所となっていました。

コロナの影響により4月から休止となりましたが、6月下旬に地区センターの調理室、会議室の使用が緩和されたため、7月からの開催に向けた検討を始めました。再開する場合①机、椅子などはどのような配置が良いか?②調理室、会場の人数制限はどのようにしたら良いのか?③参加者は来てくれるのか?など意見交換をしました。

その結果「こんな時だからこそ地区社協が率先しなければ!」「子どもたちも行く場所がなくっている。早く再開してあげたい」との思いが確認され「始めなければ次につながらない!まずは再開しよう」となりました。

再開にあたり、「困難な時期がまだまだ続いているが、お互いを守るという積極的な思いでこの難局を乗り切りましょう」との代表の言葉に皆の心が一つになりました。

#### 栄区 豊田地区社協

# 地区社協として大切にしたこと

活動を再開することで、活動者をはじめ、地域住民へのエールとなり、また子どもたちと**つながり続けたい**との強い思いで早期に再開することができたと思います。

再開は難しい決断ではありましたが、この決断が豊田地区はもちろん、他の地域の活動者の背中を押し、勇気を与えてくれた出来事だと思います。



感染予防をしての受付の様子

## 地区社協の困りごと、みんなはどうしてる?

コロナの影響を受けて出てきた共通の困りごとを他の地区社協ではどのように工夫しているか、聞いてみました。

活動を再開したいが、感染に対する不安があります。また、周りの目が気になってしまいます。

メンバー間で十分に話し合って、納得したうえで活動を再開しました。

活動当日は、チェックリストなどを十分に確認すると 共に感染防止対策をしていることを書いたチラシを地域の人にも見てもらえるよう掲示しました。

コロナの影響により、今まで行ってきた活動ができなくなってしまった。 活動を再開すべきでしょうか? 今まで行ってきた活動が誰の何のためだったのか確認 をして、別の方法を検討しました。

子ども食堂をやっていましたが、食事の提供が難しくなりました。しかし、この活動は子どもの居場所づくりが目的だったことを再確認し、食べ物は持ち帰りにして自由におしゃべりする場を作りました。

活動を休止していることで、外出する機会もなくなり、 孤独を感じている 高齢者が増えてしまいました。 これまでと同じやり方ではなく、感染防止対策を行うことでつながりあえる方法を検討しました。区社協、CP、区役所にも他地区の情報をもらいながら、手紙や電話など会えなくてもつながることができる機会を作りました。

地域で活動する団体と『話し合い』の機会を作り、それぞれの状況を把握し課題解決に向け一緒に検討していくことも大事な応援の一つです。

地区社協が今まで話し合いの場を大切にしてきたことが、コロナの影響で活動ができない団体同士で悩みを共有する場として活かされています。

#### 市域のデータ

#### (1) 地区社協主催の会議数

会議数	延べ実施回数	参加者数
<b>1,117 会議</b> (うち困りごとの検討を している会議 309 会議)	5,038 🛭	26,054人

話し合いの場があることで団体 同士をつなぎ、情報交換する機 会を通じて応援しています。

【団体を応援するための話し合いの場(例)】

- ・助成団体交流会:地区社協助成団体の活動紹介・共有
- ・活動団体情報交換会:地区社協が把握する活動団体の代表者で情報交換を行っている。

#### (2) 地区社協が他団体に出している助成金額

話し合いを通じて団体の取組や課題を把握し、様々な活動を応援しています。

	件数	助成総額(円)	1団体への平均金額(円)
個別世帯の見守り	66	4,807,366	72,838
地域全体の見守り(パトロール)	20	526,000	26,300
地域全体の見守り(支えあいマップ·要援護者マップなど)	10	72,600	7,260
交流(イベントなど単発な物)	187	13,976,027	74,738
居場所(サロン・子ども食堂など継続的なもの)	539	23,619,889	43,821
配食活動	44	4,328,005	98,363
地区ボランティアセンター	18	1,504,000	83,555
人材育成	20	238,206	119,103
合 計	904	49,072,093	54,283

ネットワーク組織である地区社協は、既存の会議だけでなく様々な場面を活かし、多様な人が参加する話し合いを通して、団体同士をつなぐことで活動支援を行ってきました。その話し合いの場を通じて、地区社協が団体の活動状況や困りごとを把握・共有し、地域みんなの課題として共感してもらうことで、様々な団体を巻き込んで解決方法を一緒に検討することができます。

地区社協が行う「話し合い」は、ネットワーク組織であるからこそできる応援といえます。

## 瀬谷区 南瀬谷地区社協

#### 南瀬谷地区活動団体情報交換会の 開催について

~地域のサロン活動再開に向け、地区社協が出来ること~

地域で活動するボランティア団体に対して、活動支援のため助成金交付だけではなく、交流会と バス研修を隔年で開催し、今年度は交流会を予定していました。

#### ボランティアからの不安の声

コロナの影響により中止も考えていましたが、役員会では、活動をどの様に再開したら良いのか悩んでいるとの話が多数出ました。活動を再開するためには非接触型の体温計が必要であるという話になりましたが、1団体では購入が難しいという意見がありました。

また、活動再開に向けたチェックリストも様々あり、詳しい説明が聞きたいという希望もありました。結果、団体の代表者を集め、**お互いの情報を共有し、活動を後押しすることを目的に情報交換を行う**ことが決まりました。

#### 前向きに取り組むきっかけに

当日は12団体の参加があり、チェックリストの説明や体温計などの一括購入について案内をしました。情報交換では、居場所が求められていること、活動場所の休館や人数制限により再開が難しいこと、まずは役員から集まり始めているなど様々な話がありました。

意見を踏まえ、地区社協から参加団体に向けて「何もしない」ではなく「少しずつ始められるところから」と声をかけました。今回の情報交換会を通じて少しでも活動に前向きに取り組めるきっかけとなりました。

#### 地区社協として大切にしたこと

南瀬谷エリアで幅広く活動している 団体は、地域福祉を支えるうえで重要な存在です。

コロナの影響により、サロン活動が 出来ないことで、行く場所がなく、 家にこもりがちになっている人もい るとの声も出ています。

サロン参加者の為はもちろんのこと、様々な情報が溢れる中で、お互いの持つ情報を共有することで、安心して活動してもらいたいと考えました。



コロナ前の交流会の様子

#### 今後に向けて

情報交換会を経て、各団体で活動再開に向けて検討を始めています。

さらに団体に現在の**活動状況を確認するアンケート**を実施した結果、「サロン活動は再開しているが、手探りで実施している」、「会食から配食に変更したところ希望者は多くなったが、担い手の数には限りがあることから対応が難しい」などの声が寄せられたため、役員会では改めて**団体を集めて情報交換会**を行っても良いのではないかと話をしています。

#### "想い"を届けるマスクセット

~寄り添い続ける地区社協を目指して~

これまで、いろいろな居場所づくりや福祉保健講座などを通し、たくさんの方が集まり、ふれあう機会を作ってきましたが、コロナの影響で多くの活動が休止・中止となりました。しかし、このような状況だからこそ、**地区社協として今できることは何か**を探ることが大切だと考えました。

そこで、まずは主に一人暮らしのご高齢の方を対象とする活動について委員で検討しました。消毒薬の配布等、様々な案について意見交換を行う中で、「コロナ禍であっても**地域のつながりを大切にしたいという** "想い"を伝えたい」との考えで一致し、何度も検討を重ねました。同じ頃、民児協でもマスクを作成するという意見が出ており、みんなが自分のできることで協力したいとの思いで取り組むことになりました。

そして、地区社協と民児協が合同で、まだ手に入りにくい時期に「消臭・除菌スプレー」と「手づくりマスク」にお手紙を添えて、一人暮ら

しのご高齢の方など 240 名以上の方にお届けいたしました。受け取った方からは「もったいなくて使えそうにありません」「大切にします」「お気遣いが嬉しくて涙が出ました」などの声がありました。



手紙を添えて手渡しました

#### 鶴見区 寺尾第二地区社協

# 地区社協として大切にしたこと

未曾有のコロナ禍の中で、 集まる機会や人と話をする 場を失い、地域の皆様は不 安な日々をお過ごしのこと と思います。

寺尾第二地区社協では、このような状況だからこそ、しなければならないこと、このような時でもできることは何かと言う、正解のない問題ではありますが、真摯に向き合い、どのような時も皆様に寄り添える地区社協でありたいと考えています。

## ボランティア団体連絡会の開催による 話し合いの場づくり

~ 今だからこそ、できること ~

高齢者食事会3団体、子育て支援団体、障害者支援団体、健康づくり団体の支援を従来から行っています。コロナの感染拡大が進む中、高齢者食事会のボランティアの一員である民生委員より、民児協定例会にて、「このまま活動を中止し続けるのか。地区全体で考える必要があるのではないか」と課題が提起されました。それを受け、地区社協役員会でも各団体の状況を共有した上で、まずは高齢者食事会3団体による連絡会を開くことになりました。

連絡会では、「参加者から『いつ再開するのか』『みんなの顔が早く見たい』との声が多い」「長期間集まれていないが、少しでも**つながりを持つことができる方法**はないか」等、活発な意見交換が行われました。その後、各団体では参加者への聞き取りやボランティアによる話し合い

を行いました。9月には、食事会だけではなく、上記6団体が参加しての連絡会を開催しました。感染拡大防止に配慮し、形を変えながらも活動できる方法を模索するとともに、活動の目的は「見守り」「交流」「孤立防止」であることを確認し、活動の果たす役割の大きさを実感する機会となりました。



2回に分けて開催した食事会

#### 旭区 旭北地区社協

# 地区社協として大切にしたこと

食事会等の活動を楽しみにしていた方々の中には認知症が疑われるような方、足腰が弱ってしまった方等が増えてきました。

そのような状況がある一方、サロンなど再開できないという迷いを抱える中、地区全体としての対応を考える機会を持つことが大切だと考え、連絡会を開催しました。今後も、団体間の意見交換の場を設けていきたいです。

#### 会議効率化による充実した話し合い

~新たな手段を活用し、個々の歩みに合わせて~

昨年度まで毎月、役員による定例会を開催し、話し合われた内容に沿って運営してきましたが、内容が多岐にわたり、報告や検討に時間がかかり会議時間が長くなることも多々ありました。

コロナの影響により、顔を合わせての定例会開催をしばらく見合わせていましたが、その間も定例会メンバーに事業の再開時期をどうするか等の検討事項はメールを使って意見交換していました。

その後、定例会が開催できるようになってからも、**事前に議題をメール送信し、メンバーからの意見を事前に集める**等の取組を継続したところ、定例会の時間が短縮でき、場合によっては定例会を開催せずに済むようになりました。もともとはコロナ対策として行った工夫でしたが、議題や報告事項を事前に整理し、メンバー内で共有したうえで集まって

協議するようにしたことにより、定例会で話し合うべき内容がより明確となりました。昨年の秋より新たにスタートした地区社協独自の助成金『ちょこっと活動助成金』の内容検討など、効率的かつ充実した定例会を行うことができています。



地区社協定例会

#### 磯子区 汐見台地区社協

# 地区社協として大切にしたこと

コロナの影響により、地域 の方々の期待に応えるべく、 自分たちにできる活動を模 索しています。

そのような状況下、コロナ対策の一環として、会議の対率化の必要に迫られ、行った工夫ではありましたが、その一方で過度に効率化のみを追い求めるのではなく、個々の歩みに合わせた対応が大切だと思います。

#### 新たな活動方法をみんなで考える

~地域のつながりを絶やさないために~

子育てサロンや合唱活動などの各事業を通じて地域のつながりづくりに取り組んできましたが、コロナの影響により、すべての事業が活動自粛を余儀なくされました。しかし、このまま**地域のつながりを絶やしてはいけない**という思いから、再開に向けてボランティアとの話し合いを重ねてきました。

話し合いでは、各事業の運営方法を全て見直し、会場となっている連合会館使用時の心得の作成や、事業毎に毎回参加者名簿を作成すること、検温・消毒の徹底など感染防止対策についても充分に検討しました。

全事業の運営者(合唱事業に関しては参加者にも)に事前説明会を実施し、感染防止対策について共通認識を持てるようにしました。

話し合いから説明会と段階的に準備 を進め、新しい生活様式を意識しなが ら、各事業を再開することができました。



感染防止対策を徹底した童謡を歌う会 「ゆりかご |

#### 金沢区 富岡第二地区社協

# 地区社協として大切にしたこと

活動が抑制される中で、これまで培ってきた地域のつながりを絶やさないために、

「まずはできることから始めていこう」という思いで進めてきました。少しずつではありますが、活動が再開し、地域に活気が戻りつつあるのが何よりの喜びです。

ここまで健康上に問題があったという報告もなく、 事業の運営者と参加者の皆 さまのご理解とご協力に感 謝しています。

## 関係機関との連携

地区社協が持つネットワーク組織の強みを活かし、様々な機関と連携する ことで新たな課題に気づくことができます。また、新たな手法につながるこ とで地域活動の後押しができます。これまで構築したネットワーク以外にも 連携先を広げ、団体同士をつなげていくことで活動に広がりが生まれます。

## 市域のデータ

#### (1) 256地区社協の組織構成(ボランティアグループ、福祉施設、企業の構成状況) 会員 役員

地域活動団体 ボランティア 自治会·町内会 ボランティアグループ 138 229 民生委員·児童委員 ボランティア(個人) 福祉施設 その他 地域ケアプラザ 149 自主防犯·消防組織 89 障害児·者関係 企 業 な 61 高 齢 者 関 係 医 子 ど も 関 係

#### ■【連携内容(例)】

民間企業

地域作業所

- ・パチンコ店が、地域の清掃活動を一緒に実施
- | ・高齢者施設が、サロン送迎用に車両を出してくれる
- ・缶バッジの作成協力
- ・地区事業での弁当、お菓子などの発注

#### (2) 他機関との連携・協働

活動数:341件

【内訳】

			職員の協力	物品·会場· 車両の提供	資金提供	合	計
社组	会福祉	法 人	136	95	8	23	39
企	業	等	52	41	9	10	)2

地区社協は幅広い分野の団体が会員として参加できます。自治会、民生委員はほとんど全ての地区社協で会員や役員に構成され、地区社協活動の基盤となっています。また、福祉施設が会員となることも増え、施設会場や車両の提供、職員の派遣などを通じて地域活動に参加しています。会員ではない地区内の企業など多様な主体と連携をすることで、住民だけでは解決が難しい課題の解決につながることもあります。地域住民と関係機関をつなぐことは、福祉課題に取り組む組織である地区社協ができる応援の一つです。

# 関係機関との連携

#### 泉区 新橋地区社協

#### コミュテニィしんばし食堂の挑戦

~食糧配布で地域のつながりを絶やさない~

「夕方に一人で過ごし、食事をする子どもや高齢者のために安心して過ごせる場を作りたい」との 思いから、平成28年より月1回、連合自治会館を会場に「コミュニティしんばし食堂」をスタート させました。食事づくりのボランティアの協力を得て、地元小学校の児童を中心に未就学児とその 親から高齢者まで誰もが参加できる「地域の食堂」として知られるようになっていきました。

#### 食堂以外にできることは

1度目の緊急事態宣言解除後、食堂は再開できなくても 何かできる活動がないかボランティアスタッフで話し合い ました。配食活動の案もありましたが、食中毒が心配だと いうスタッフの意見も挙がりました。

そこで、これまでの活動を通じてつながりのあったフー ドバンクかながわ・横浜市資源循環局・泉区役所・セブンー イレブンなどからの寄付食糧を配布する活動を、月1回食 堂の定例開催日に行うことにしました。

#### 食べ物を渡すだけではなく

活動日には食堂に来ていた親子など約70人が定期的に やってきます。お菓子や飲み物などと一緒に**「何かお困り** のことはございませんか?お力になれることがあるかもし れません。例えば、お米、うどん、そば、パスタなどの穀類、 調味料等をお渡しすることができますのでご相談くださ い。」と書いたお手紙を配布しています。このお手紙は区 社協、区役所、CP と共有し、地区内の困っている方を地 域の食支援につなげられるよう渡してもらっています。

#### 地区社協として大切にしたこと

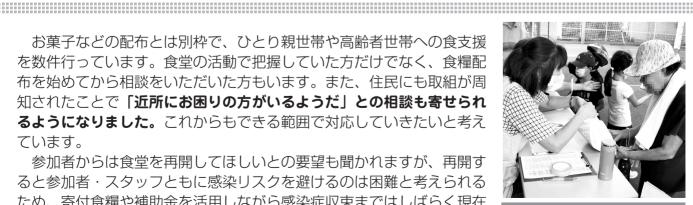
来てくれる人やスタッフの安全性が 担保できないうちは食事提供の活動 はできないと判断しました。 それでもこれまで食堂を利用してい た多くの人とつながり続けること、 困っている人のために何か力になれ ることはないかと考え、この状況下 でもできる活動を続けることにしま した。



## 今後に向けて

お菓子などの配布とは別枠で、ひとり親世帯や高齢者世帯への食支援 を数件行っています。食堂の活動で把握していた方だけでなく、食糧配 布を始めてから相談をいただいた方もいます。また、住民にも取組が周 知されたことで「**近所にお困りの方がいるようだ」との相談も寄せられ** るようになりました。これからもできる範囲で対応していきたいと考え ています。

参加者からは食堂を再開してほしいとの要望も聞かれますが、再開す ると参加者・スタッフともに感染リスクを避けるのは困難と考えられる ため、寄付食糧や補助金を活用しながら感染症収束まではしばらく現在 の活動を続けていく予定です。



類を合わせることで安心感が生まれます

# 関係機関との連携

#### コロナ禍でもできる見守り活動

~ 『認知症みまもり協力店』で見守りの目を増やす~

サロンや食事会で月 1 回定期的に顔を合わせる機会がなくなり、戸別訪問をして様子を確認することが難しくなったことで、これまで日常で見守り、気にかけていた住民の様子がわからなくなるという状況に陥りました。

再開された地区社協や地区民児協の定例会では、**コロナ禍での見守りの難しさ**について「見守る相手が高齢であることが多く、重症化のリスクが高いことからむやみに近づけない」「電話で様子を伺おうとしても、特殊詐欺防止のため留守番電話にしている人が多い」「耳が遠い人は電話でのコミュニケーションが難しい」という意見がありました。それらの話し合いの中で、近所のコンビニの店員から「お客さんの様

子がいつもと違う」という連絡をもらったという話がありました。

そこで生活の中でよく行くお店の人がその人のことを見守ってくれる目になってくれれば、そのお店などを通して見守り活動が出来るというアイデアが出ました。地区社協や地区民児協がコンビニや総菜屋など地域のお店に協力を呼びかけした結果、地区内の『認知症みまもり協力店』を増やすことができました。



認知症みまもり協力店

#### 神奈川区 神大寺地区社協

# 地区社協として大切にしたこと

サロンや食事会等の再開について検討を重ね悩む中で、「今できること」を考えこの取組が生まれました。これからも、近隣の地区社協同士、地区民児協やCPと連携し、皆で話し合いながら新しい発想を大切に「今できること」を探し、取り組んでいきたいです。

## あきらめないで。 制度を使って暮らしを守ろう

~必要な人に必要な情報を届けたい~

コロナによる影響で生活費にお困りの方・世帯等向けに、国や自治体から様々な支援策・制度が発表されました。しかし、それらは複雑でわかりづらく、**必要な人にきちんと情報が届くかどうか**が心配です。

そこで、**生活費の貸付や補助、給付等の情報を整理し一覧にまとめる**ことになりました。「休業で家計が維持できない」「家賃・ローンが払えない」「学費や定期代、給食費が払えない」等、具体的な困りごとを入口に、それに対してどのような制度が使えるか、どこが相談・申込の窓口なのかを簡潔に記載しました。

作成した資料は、**地区内のすべての掲示板**に掲示しました。ほとんどの行事やイベントが中止となり何も貼られていない中で、色紙に印刷された資料はとても目立ちました。あわせて、地区内の子どもたちが通う**小・中学校に相談し、学校の印刷機を借りて**印刷を行い、**全校** 

生徒に配布をしてもらうことができました。幼稚園や保育園、県立高校への配布は部数等の関係で今回は断念しましたが、今後も様々なところと連携しながら、地域の方々が安心して過ごせるまちづくりを進めていきます。



地区内約40か所の掲示板に貼りました

#### 港北区 新羽地区社協

# 地区社協として大切にしたこと

なかなかアプローチしづらい「小中学生の親世代」に 地区社協を知ってもらう機会になればと、資料には社協の説明を入れました。また「ひとりで抱え込まなで問りに話してみて~『和・輪・話』のまちにっているがりを感じてほしいという思いも込めてはしいという思いもっています。

#### コロナ禍における住民ニーズを掘り起こす

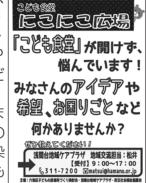
~こども食堂再開に向けた検討から生まれた取組~

地域の子どもの「食の支援」と「家庭的な居場所の確保」を目的とし、 地区社協をはじめ様々な団体等が関わり、こども食堂「にこにこ広場」 を運営しています。コロナの影響により活動自粛を余儀なくされ、再 開に向けて話し合いを重ねてきましたが、時節を見て自粛延長の繰り 返しでした。

新しい生活様式に対応したこども食堂の活動形態を模索する中で、「率直に地域住民の声を聞き取りたい」との思いや、その他にも「こんな時だからこそ隠れた困りごとがあるのではないか」とコロナ禍にお

ける地域ニーズを掘り起こす必要性の声も上がり、 自治会の掲示板に『困りごと・意見募集』のチラシを掲示しました。周知等は地区社協・自治会・ 民生委員が中心で担い、区社協はチラシ作成、CP は困りごと・意見募集の窓口として支援するなど 様々な主体が連携して実施しました。

地域住民の声を多く拾い上げるには至っていませんが、掲示板を見た市民病院の感染症担当医の目に留まり、担当医による地域活動のための感染症対策講座開催につながると共に、こども食堂も今後テイクアウト方式での再開に向けて検討が進んでいます。



「回りで」 辛口芸生 (のイニ)

#### 西区 第六地区社協

地区社協として大切にしたこと

話し合いを重ねる中で、子 ども達の「居場所」機能の 重要性を再認識しました。 一方でこれまでの活動が 「食支援」を必要としてい る子ども達に届いているだ ろうかとの思いも共有しま した。

地域の中で困っている人た ちを把握し、地区社協や関 係団体等が今後何をすべき か、これからも話し合いを 続けていきます。

#### 外国籍の方にとっても住みやすい まちづくりの検討

~コロナによる住民の生活への影響に関する話し合いをきっかけに~

地福計画の策定会議で、コロナによる地域活動への影響や、地域住民の生活への影響について情報交換を行いました。その中で、「外国籍の方との間でゴミ出しなどの生活課題が生じている」、「外国籍の方と交流をしたいと思っているがどうしていいかわからない」、「区社協の貸付相談では、エリア内に居住する外国籍の方からの相談が多い」等の話があり、**外国籍の方とも直接、話をする懇談会を実施したい**との声が上がりました。

そこで、「国際交流ラウンジ」の方から外国籍の方の現状や支援状況 等の話を伺う機会を設けました。その中で、いきなり外国籍の方に話 し合いの場に来てもらうのはハードルが高いことがわかり、まずは知 り合いになるところから始めることにしました。

外国籍の方は祭り好きが多いという話から、地域で実施する夏祭り等の行事チラシを読みやすいように工夫したり、参加してくれた方と交流できるようなブースを設けるなどのアイディアが出てきました。

地福計画では、外国籍の方とのふれあいの機会づくりをテーマに盛り込み推進する予定です。



外国籍の方への支援状況に 関する勉強会資料

#### 保土ケ谷区 保土ケ谷南部地区社協

# 地区社協として大切にしたこと

地域では外国籍の方のゴミ 出しの問題がクローズアッ プされがちですが、母国を 離れ、異国で暮らす方の気 持ちに寄り添い、まずは「つ ながりづくり」から始めよ うと考えています。

地福計画の推進を通して、 外国籍の方と一緒に、外国 籍の方にとっても**住みよい** まちづくりが出来ればと 思っています。

## おわりに

新型コロナウイルス感染症の広がりにより、人が集まり顔を合わせて交流することが 制限され、地域活動やボランティア活動は休止や延期をせざるを得なくなりました。 この間、閉じこもりによる運動不足やストレス等により、高齢者の虚弱化の進行、社 会的孤立の深刻さ等が増しています。また、経済的な生活困窮に陥る方も多く、今後も 福祉ニーズの深刻化や新たなニーズの発生が懸念されます。

そのような状況の中でも、地区社協のみなさまには、身近な地域の中でのつながりやささえあいが途切れることのないよう、話し合いや様々な工夫をして、活動再開の支援に取り組んでくださっていることにお礼を申し上げます。

この間、私たちは「誰かとつながっていること」、「誰かを支えたり支えられたりしていること」の大切さを改めて認識することとなりました。

これまでみなさまが長年かけて築き上げてきた「つながり」や「活動の意義」を失わないためにも、各活動の段階的な再開のために今何をするべきか、何が出来るのかを一緒に考え、共に進めていくことを目指して、この「よこはまの地区社協活動 ~地区社協データ&事例集~」を作成しました。

これまでの生活を取り戻すには、まだ時間が必要です。感染予防を徹底すればするほど、見守り・居場所づくり・つながりづくりが進まない…といったジレンマを感じることも多いかと思います。"こうすれば絶対にうまくいく"という方法はないかもしれません。「ウィズ コロナ」といわれている中、「新しいつながり方」を考えていくために、今"できること"を"できる方法"で、みんなで進めていくためのきっかけにしていただければ幸いです。

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 地域活動部長 池 田 誠 司

令和3年度

https://www.fukushihoken.co.jp

全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償 プランティア活動中のケガや賠償責任を補償



#### 保険金額・年間保険料(1名あたり)

プラン保険金の種類			基本プラン	天災・地震補償プラン	
	死亡保険金		1,040万円		
ケガの補償	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円		
		外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額		4,000円		
	地震・噴火・津波による死傷		X	0	
賠償責任の補償 賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)			
年間保険料		350円	500円		

商品パンフレットは **コチラ** 



( ふくしの保険 ホームページ

団体割引 20%適用済/過去の損害率による割増引適用

#### <基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ 「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

## ボランティア行事用保険(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

#### 送迎サービス補償(傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

#### 福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中の ケガや賠償責任を補償!

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

#### 団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL:03(3349)5137

受付時間:平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

#### 取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F TEL: 03 (3581) 4667 FAX: 03 (3581) 4763 受付時間: 平日の 9:30~17:30 (12/29~1/3 を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

# よこはまの地区社協活動 〜地区社協データ&事例集〜

令和3年3月発行

編集·発行 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 〒231-8482

> 神奈川県横浜市中区桜木町 1-1 横浜市健康福祉総合センター8階 (地域活動部 地域福祉課)

TEL: 045-201-8616 FAX: 045-201-1620 http://www.yokohamashakyo.jp

このデータ集は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。 赤い羽根共同募金は、LINEPay からも募金ができます。





